

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

北海道の 印刷

2011
12

第667号(平成23年12月)

発行/平成23年12月10日

北海道印刷工業組合

〒064-0808 札幌市中央区南8条西6丁目

TEL(011)562-6070

FAX(011)562-6072

URL: <http://www.print.or.jp>

E-mail: info@print.or.jp

印刷燦燦 ————— 3

第3回「心に響く…北のエピソード」入賞作品決まる — 4~6

十勝支部第2回セミナー — 6

平成23年度共済制度加入拡大キャンペーン — 7

全印工連フォーラム ————— 8

平成24年新春経営者研修会のご案内 — 9

北海道産業貢献賞受賞者 — 10

オフセット印刷技能士合格者 — 10

業界のうごき ————— 10

2012全日本印刷文化典北海道大会 9月20日(木)~22日(土)



さっぽろホワイトイルミネーション

印刷燦燦

七転び八起き

監事 島津 明美

有限会社プラスメディア代表取締役

「七転び八起き」ということわざがある。皆さんご承知の通り、何度失敗しても諦めずに立ち上がることのたとえ、浮き沈みの激しい人生のたとえだが、この立ち上がる時にこそ、それぞれの人生が刻まれていくように思える。

若いときは、転んだ原因が足下の石ころだと思い込んでいたものが、失敗を重ねる事で原因は石ころではなく、自分自身の姿勢にあったのだと気づかされる。さらに周りを見渡せば、自身の視野の狭さに気づかされる。

もちろん、平穏無事な人生を生きて行ければ、それに越した事は無いが、人間である以上、失敗がつきものである。

だからこそ、失敗した（転んだ）時は、この転機を一つのチャンスに繋げたい。

転んだ状況を振り返り、ふと冷静に考えると、つまづいた原因が何なのか見えてくる。他人のせいにする事は容易いが、それではせっかくの「気づき」のチャンスを逃してしまう事になる。

失敗から自身の成長へ導くためには、転んだ事に「学び」、「正し」、「改め」、「感謝し」立ち上がる事で、その人の人生が一つ豊かになっていくのではないだろうか。

これは個人だけによらず、家族、企業、そして組織などにも当てはまる。転んだ時の痛みを共に分かち合い、「気づき」を共有すれば、一回り大きくなって立ち上がる事が出来るのだと思う。

ただ、果たして人生いつになったら転ばずして、豊かになれるのだろうか…？

……道のりは遠い気もするが、七転び八起きで、失敗を恐れず前進する事を心掛け努力して行きたいものだ。



第3回「心に響く…北のエピソード」入賞作品決まる

第3回「心に響く…北のエピソード」事業が、「心に響く…北のエピソード」実行委員会（構成＝北海道印刷工業組合、(社)日本グラフィックサービス工業会北海道支部、(株)サクマ）の主催で開催され、6月1日から8月31日まで作品募集が行われ、480点の応募があり、1次審査、本審査と2度にわたる審査が行われ、最優秀賞・北海道知事賞1作品、一般部門の優秀賞1作品、佳作3作品、高校生部門の優勝賞・北海道教育長賞1作品、佳作1作品、中学生部門の優秀賞・北海道教育長賞1作品、佳作1作品、小学生部門の優秀賞・北海道教育長賞1作品、佳作2作品と入選88作品を決定し、11月12日に札幌プリンスホテルにおいて表彰式を開催した。

「心に響く…北のエピソード」事業は、健全な日本文化を築くには、日本の文化、歴史の基盤である日本語を正しく理解し、「先人からの学習、教訓等」を学ぶことが大切であり、それは活字文化が持つ豊かな表現力が「人づくり、地域づくり」を可能にすると考え、その実現への一つとして、道民の皆様により印刷との関わりを持っていただくための活動として、表現力の豊かな日本語による「心に響く…北のエピソード作品」を北海道において募集し、表彰を行い、作品集として発表することにより道民文化の質的向上の一助にしたいと同時に活字離れを防止し、印刷文化のさらなる発展を期して、北海道ならびに北海道教育委員会の後援を受けて実施している。

表彰式は、岡部康彦実行委員会会長が、「今年は480点の応募があり、その中から選ばれた皆さんである。この事業は第3回になるが、我々印刷業界が道民の皆様と少しでも何かの絆を持つとうということで発案したものである。今回受賞された方々のすばらしい文書を読ませてもら



い感激した。今は電子書籍などで活字離れのような雰囲気も少しあるが、決して印刷文化は捨てたものではない。文書を書くこと作文をするということは非常に良いことだと思っている」と主催者を代表してあいさつを述べた。

次に、池田哲実行委員会委員から3段階に及ぶ作品審査を行い入賞・入選作品100点を決定したと選考経過が発表された。

各賞の表彰が行われたあと、木原直彦審査委

員長が審査講評として「人それぞれに感動したこと、悲しかったこと、怒りを抑えられないこと、事件、エピソードを持っている。それを短い中にどう書くか。文章というのは技術である。取捨選択し、そしてどのように構成するか、最後には当たり前の話であるが文章の良さということになる。その文章の良さが読むものに感動を与える。これが作品というか文章というものだ」と述べたあと、入賞作品12点それぞれについて感想が述べられた。

最後に受賞者を代表して3人から作品の制作意図や受賞の感想が述べられた。

また、入賞・入選作品は、作品集として取りまとめ、道内の公立図書館、公民館図書室に寄贈している。

入賞者の氏名・作品名は次のとおり。

最優秀賞・北海道知事賞

(受賞者) 木谷悦朗

(作品名) 沢庵と孫娘

(住 所) 江別市

【一般部門】

優秀賞

(受賞者) 石橋尚美

(作品名) 母の握りこぶし

(住 所) 室蘭市

佳作

(受賞者) 伊藤迪子

(作品名) 炭鉱講座

(住 所) 余市町

佳作

(受賞者) 内山あさ美

(作品名) 花嫁の切り絵

(住 所) 函館市

佳作

(受賞者) 藤井壽夫

(作品名) 雑巾

(住 所) 函館市

【高校生部門】

優秀賞・北海道教育長賞

(受賞者) 中山晴貴

(作品名) ゴン太との出会い

(学 校) 北海道稚内高等学校

佳作

(受賞者) 齊藤可紗

(作品名) 東北へ届け、希望の声。

(学 校) 函館白百合学園高等学校

【中学生部門】

優秀賞・北海道教育長賞

(受賞者) 折笠紫保

(作品名) 松ぼっくりに祈る

(学 校) 広尾町立広尾中学校

佳作

(受賞者) 福島祥之

(作品名) 旅行を通して感じたこと

(学 校) 伊達市立伊達中学校

【小学生部門】

優秀賞・北海道教育長賞

(受賞者) 湯川 築

(作品名) ペルセウス座流星群への長い旅で見つけた僕の願いごと

(学 校) 札幌市立川北小学校

佳作

(受賞者) 高橋奈々

(作品名) きずな

(学 校) 札幌市立緑丘小学校

佳作

(受賞者) 高橋希実

(作品名) 妹

(学 校) 士別市立上士別小学校

最優秀賞・北海道知事賞

沢庵と孫娘

木谷悦朗（江別市）

よさこいソーラン祭りを見に10歳の孫娘と出かけた昼、デパートの食堂でカツ丼を注文した。孫娘は盆に添えられてきた2切れの沢庵を「これ、いらない」と言って私の盆に移してきた。2つ並んだ沢庵の皿を見て、急に遙か少年時代のことが蘇ってきた。

もう60年も前になるだろうか、高校1年の冬休みが終わる日の午後「お母さん、これから寮へ戻るけど何か“お八つ”ない」と言う私に、困惑顔をしている母の近くにいた祖母が台所奥の漬物樽から沢庵1本を取り出し、糠を洗い落としたその半分を出かけようとしていた私にくれた。雪の降りしきるなか馬轡道を1時間、沢庵をかじりながら駅へと急いだ。

我が家を出てから3時間、学生寮のおかずは、手の平大の鮭の開きと沢庵だった。

しかし寮の沢庵は雪道で口にした、冷たくびりっと舌にしみる我が家の美味な沢庵の味ではなかった。

数日後、祖母からたどたどしい宛名で小包みが届いた。中には週に一度来る行商人から買った、きび団子5本と、するめ数枚が入っていた。それを見て沢庵をくれたときの祖母の気持ちのすべてを察した。

豊かではなかった少年時代を回想し、しばらく無口になっている私に、カツ丼を食べ終えた孫娘が「お爺ちゃん、何考えているの」と問いかけてきた。

「沢庵を見て子供の頃を思い出したんだよ、あの頃、冬の田舎では沢庵も立派なお八つさ、物は豊かではなかったけど皆が辛抱して、思いやりや助け合いなど、人の心は豊かだったよ」と話す私に孫娘が「沢庵がお八つでも心豊かな時代でよかったね」と目を輝かせながら言った。

「さあ、よさこい踊りの見物だ」とデパートを出ると、高校生のグループだろうか。東日本大震災の義援金を呼びかけていた。

それを見て、先を歩く孫娘は小走りに募金箱の前へ行き、出かけ際に渡した小遣いをそのまま募金箱に入れ、振り向いて「お小遣いは無くなったけど心は豊かになったよ」とささやいた。その顔は「これお姉ちゃんに内緒だよ」と言って小遣いを渡したときに見せた、あどけない笑顔ではなく、大人の顔つきに変わっていた。

その顔を見て、もう明日からは年寄り爺の余計なアドバイスは必要ないことを悟った。

十勝支部平成23年度第2回セミナー開催

十勝支部（野津雅之支部長）は、10月21日（金）の午後6時30分から十勝産業振興センターにおいて富士ゼロックス北海道(株)ソリューション営業部の大滝雅紀部長を講師として迎え「企業が考える印刷発注と受注者効率を上げる取捨選択」をテーマに90分のセミナーを行いました。

当日は、組合員、組合員企業の営業・製作スタッフなど約40人が参加し、富士ゼロックスの顧客の事例・ニーズなどを数多く取り上げながら「発注者は何を望んでいるか」を語り、また印刷工程での生産効率化にプリンターを役立てるなどのノウハウを提供してくれました。

大滝部長は今回が初めての講演でしたが、要



講師の大滝雅紀氏

望があればどこでも開催する意向があるようですので、各支部でのセミナー・会社の社員教育などに利用されたいかがでしょうか。

平成23年度共済制度加入拡大キャンペーン

生命共済・設備共済・医療共済

全印工連は、全国組合員の相互扶助に基づく共済事業として生命共済・設備共済・医療共済・災害補償共済・経営者退職功労金制度の5つの共済制度を実施している。

これらの共済制度は、全国規模のスケールメリットにより、一般の保険と比べて割安な掛金で福利厚生や経営安定に役立つ制度として、いずれも多く組合員企業が利用している。

企業にとって人や設備は大切な資産であり、従業員の死亡・入院や労災事故、突発的な事故による機械設備の故障など、不測の事態に備えるための共済制度は必要不可欠なものである。

また、割安な共済制度を利用して保険の見直しを行うことは効率的な経費の節減にもつながる。

全印工連では、本年度、5つの共済制度のうち、生命共済・設備共済・医療共済の3つに焦点を絞り、「共済制度加入拡大キャンペーン」を実施している。

北海道においても11月から「平成23年度共済制度加入拡大キャンペーン」を実施している。

キャンペーンの実施にあたり、「生命共済」の推進担当会社として第一生命保険株式会社と富国生命保険相互会社の2社、「設備共済」と「医療共済」の推進担当会社として共立株式会社に委託して募集活動を行っている。

■キャンペーンを行う共済制度

- 「生命共済制度（ライフピア）」
経営者や従業員の方の死亡・高度障害のほか、不慮の事故による障害や入院について、割安で大きな補償を得られる制度
- 「総合設備共済制度（せつび共済）」
機械設備事故による損害を補償する制度、オプションにより全国規模で発生している風水害や地震災害による補償にも対応
- 「医療共済制度」
疾病・障害による入院や所定の手術を受けた場合や三大疾病で入院した場合に補償する医療保険

■キャンペーン推進会社

平成23年度共済事業支部別担当会社

支 部	生命共済	設備共済・医療共済
旭 川	富国生命	共立(株)
小 樽	第一生命	共立(株)
オホーツク	第一生命	共立(株)
北 空 知	富国生命	共立(株)
札 幌	東分区 富国生命	共立(株)
	西分区 第一生命	共立(株)
	南分区 富国生命	共立(株)
幌 北分区	第一生命	共立(株)
十 勝	第一生命	共立(株)
苫 小 牧	富国生命	共立(株)
函 館	第一生命	共立(株)
南 空 知	第一生命	共立(株)
室 蘭	富国生命	共立(株)
稚 内	富国生命	共立(株)

■キャンペーン推進会社連絡先

〔生命共済〕

第一生命保険株式会社
札幌総合支社営業推進グループ
担当 横山己喜雄
電話(011)241-3141 FAX(011)209-0323
富国生命保険相互会社
札幌支社市場開発課
担当 近藤浩司
電話(011)221-1373 FAX(011)221-1023

〔設備共済・医療共済〕

共立株式会社札幌支店
担当 谷野宏樹
電話(011)281-5705 FAX(011)222-1927

全印工連フォーラム2011開催される

2012計画を発表

全印工連フォーラム2011が9月16日午後2時から東京都江東区の東京ビックサイトで約500人が参加して開催され、「業態変革実践プラン総集編—全印工連2012計画」を発表した。

最初に、水上会長が「全印工連は過去7年間にわたり業態変革を提唱してきた。多くの組合員が理解しているが、実践までできていないのが現実である。我々は、本日発表する2012計画を業態変革ファイナルと位置付けしている。決して業態変革を止めるわけではなく、言葉としては今度を最後にする。メッセージではその7年分を集大成として、経営者だけでなく従業員に対しても活用できるよう工夫されている」と述べた。

第1部の「全印工連メッセージ」では、萩原業態変革推進企画室委員長から「業態変革実践プラン総集編—全印工連2012計画」が発表された。

全印工連2012計画は、これまでの7年間にわたる2010計画の業態変革推進事業の総集編として、業態変革を実践、継続、定着させるためのアクションプランの策定を提案する「業態変革実践マニュアル」を発行した。このマニュアルは、これまで発表された提言やツールをより実践につなげるため、企業の現状を見える化する「7 keys」「5 Doors」の設問項目を全て見直し、「7 keys2012」「5 Doors2012」としてリニューアルして制作された。

次に印刷産業ビジョン研究会から「印刷関連

業界と考えるこれからの印刷産業」をテーマに現在検討を進めている「印刷物の減少を抑える対応」「印刷物を伸ばす対応」「ソリューション展開への対応」の3つのテーマの中間報告が各担当委員長から発表された。

第2部の「海外企業研究セミナー」は、マーケティング・サービスプロバイダーとして成長する米国印刷会社WILLEN社のダリン・ウィレン社長を講師に迎え、「米国印刷会社WILLEN社の成長戦略とその実態」をテーマに講演が行われた。

同社は、幅広い顧客層事業戦略からクリエイティブのリソース、データ解析サービス、最先端の印刷サービス、一貫型フルフィルメントまで提供するマーケティング・サービスプロバイダーとして成長した印刷会社で、「米国の急成長企業5000」に3年連続でランクインしている。

ウィレン社長は、「印刷のソリューションではなく、マーケティングソリューションを売ること」と同社の成長戦略の骨子を説明し、「競争に一步先にでるには設備にも投資し、最新の技術を導入することで他社の追随を許さない最新のサービス提供を行うこと」が強みになると説明した。

平成24年新春経営者研修会のご案内

北海道印刷工業組合は、平成24年新春経営者研修会を開催する。

今、印刷業界には、製造業としての役割のほかにサービス業、情報産業としての新しい役割が求められている。

自ら進んで時代の要請に合わせて変わっていかなければ、あっという間に変化に取り残されてしまう。

印刷業の従来の対象市場は残念ながら縮小してきており、このままでは将来的な成長を望むことはできない。

このようなことから、全印工連では昨年、2020年の印刷産業の在り方を“目指せ！ソリューション・プロバイダー”としてデザインした「産業成長戦略提言2010」を発表した。

もはや、「印刷がきれいで、安く、早くできる」では、お客様の要望に応えることはできない。

今後10年、飛躍し発展できる印刷会社の条件は、ソリューション提案ができ、マーケティングが解るスタッフを確保・育成することである。

そこで、ソリューション・プロバイダーについて深く理解してもらうため、この提言を策定した全印工連産業成長戦略デザイン室委員長であり副会長の島村博之氏を講師に招き研修会を開催する。

1. 日 時 平成24年 1月10日(火)
午後3時～4時
2. 会 場 札幌グランドホテル
(札幌市中央区北1条西4丁目
電話011-261-3311)
3. テーマ 「ソリューション・プロバイダーへの挑戦」
4. 講 師 全日本印刷工業組合連合会副会長
同 産業成長戦略デザイン室委員長
島村 博之氏
(六三印刷株式会社代表取締役会長・東京)
5. 受講料 無 料
6. 定 員 100人(申込先着順で定員になり次第締め切ります)

北海道印刷関連業協議会 平成24年新年交礼会

北海道印刷関連業協議会の平成24年新年交礼会が開催されます。

日時 平成24年 1月10日(火)午後5時
会場 札幌グランドホテル
(札幌市中央区北1条西4丁目
電話011-261-3311)

会費 8,000円

北海道産業貢献賞受賞おめでとうございます

平成23年度北海道産業貢献賞の表彰式が、11月15日午後1時から札幌市中央区の京王プラザホテル札幌で開催され、北海道印刷工業組合から団体役員として岡部康彦氏が、これまでの功績が認められ、栄えある北海道産業貢献賞を受賞されました。



岡 部 康 彦 氏

北海道印刷工業組合理事長

北陽ビジネスフォーム株式会社代表取締役

株式会社北診印刷代表取締役

札幌支部

オフセット印刷技能士おめでとうございます

平成23年度のオフセット印刷技能検定の合格者がこのほど発表になった。
組合員企業の合格者（技能士）は次のとおり。

〔1級技能士〕

▶ 札幌支部

渡邊基嗣（株式会社正文舎）

〔2級技能士〕

▶ 札幌支部

中道雅志（㈱プリプレス・センター）、砂田大介（同）、菅原生真（同）、中澤正博（同）

業界のうごき

▶ ヤヨイ印刷代表に安達隆真氏

ヤヨイ印刷（函館市大町8番31号）は、このたび、安達隆二代表の死去に伴い、新しく代表に安達隆真氏が就任した。

■ おくやみ ■

新沼 浩氏（株式会社北海民友新聞社相談役・オホーツク支部）は、かねてより入院加療中のところ8月19日に逝去されました。85歳。

通夜・告別式は親族により密葬で行われ、紋

別市・新沼家合同葬が、9月5日午前11時から紋別市民会館大ホールでしめやかに執り行われました。

安達隆二氏（ヤヨイ印刷代表・北海道印刷工業組合顧問・函館支部）は、かねてより入院加療中のところ9月30日に逝去されました。75歳。

通夜は10月2日午後6時30分から、告別式は3日午後1時からいずれも函館市内の平安ホール白雲殿でしめやかに執り行われました。